土木学会昭和44年度全国大会経過報告

土 木 学 会 関 東 支 部

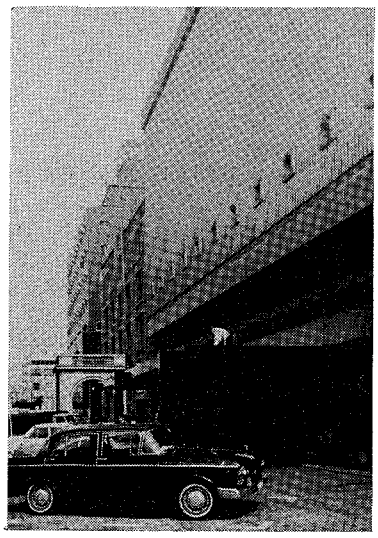
1. は じ め に

例年，開催地区の大学に会場設営を依頼していた年次学術講演会も，今年は大学紛争のあおりから，ついに会場の使用に積極的な学校がなく，止むを得ず民間の会場を借上げて使用するという異例の事態となった。

ここにに至るまでには，大学に準ずる施設の利用案（たとえば建設大学校と国鉄中央学園の併用），高等学校利用案，東京地区以外の開催案（たとえば甲府，宇都宮など）等，各種の提案が真剣に討議されたのであるが，大学等での開催に努力はするが安全側をみて民間の会場を併行して手配する，ということに意見の一致をみて，結局は麹町地区5ビル・13 会場案に落着したものである。

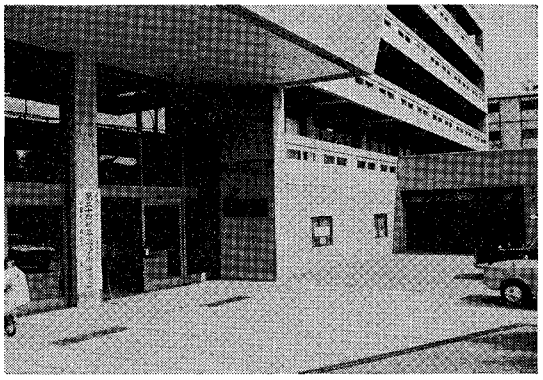
100 万円を超える会場借上げ費の負担，会場分散による運営

写真—1　第 I 部門会場となった都市センター（手前）と第 IV 部門の麹町会館（手前から3つ目のビル）

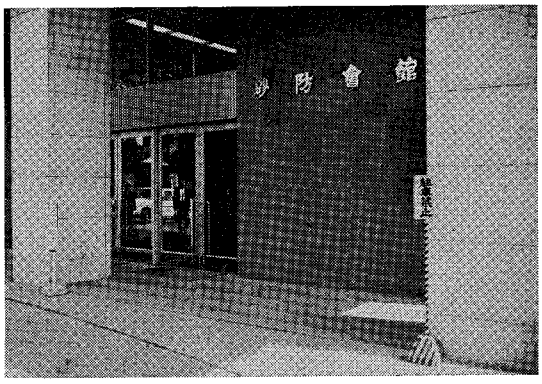


写真—2　麹町会館で受付をすませる参加者

写真—3　第 II 部門A会場となった都道府県会館



写真—4　第 II 部門B会場となった砂防会館



写真—5　第 III 部門会場となった全共連ビル

の困難，学生アルバイトの求人難，等々，問題は山積したが，何とか曲がりなりにも全国大会らしい雰囲気を盛り上げることができたと考えている。

2. 特別講演会

昭和44年度全国大会の口火を切った特別講演会は9月26日(金)9時30分から12時30分まで，砂防会館ホールで行なわれた（講演内容は別掲)。その目次は下記の通りである。

9.30～10.30　土木技術者の使命
土木学会長　柳沢　米吉
10.30～11.30　地中における地震動
東大教授　岡本　舜三
11.30～12.30　建設機械化の推移と今後の動向
日本国土開発　伊丹　康夫

写真—6　特別講演会に先立って挨拶する小林実行委員長

写真—7　特別講演会終了後会場を出る出席者

時間，開催場所，その他の関係から聴講者の出足は必ずしも良かったといえないが，250名余の会員が熱心に聴講した。

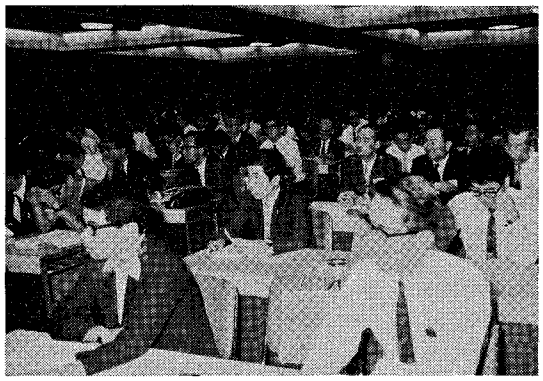
3. 第24回年次学術講演会

3.1 部門講演

昨年の中部支部における大会に引続き，本年も4部門から1名ずつ，その部門の一分野におけるトピックスを，専門外の会員にも紹介することを考えて行なわれた（講演内容は別掲)。その目次は下記の通りである。

第Ⅰ部門　最近の鋼材の諸問題について
東大教授　奥村　敏恵
第Ⅱ部門　下水汚泥の処理，処分の現状と問題点
北大教授　寺島　重雄
第Ⅲ部門　土質力学とレオロジー
東工大教授　山口　柏樹
第Ⅳ部門　近代写真測量の発展とその土木工学における役割　東大教授　丸安　隆和

写真—8　部門講演に熱心に聞き入る聴講者

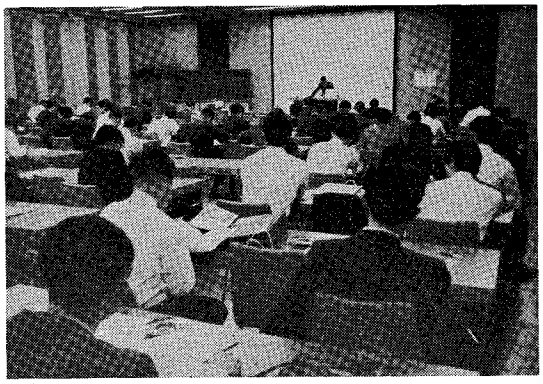


第Ⅰ部門220名，第Ⅱ部門110名，第Ⅲ部門230名，第Ⅳ部門140名，延べ700名という聴講者を集め，計画の成功を認識したが，会場の地財ホールが狭く，天井が低かったことは，聴講者に不便をかけたようであった。

3.2 研究発表

研究発表の主力である大学が研究できる雰囲気でなかったこと，開催地が東京であること，等のためか，昨年の755編を20%下回る598編の発表にとどまった。第Ⅰ部門（応用力学・構造力学・橋梁，等）169，第Ⅱ部門（水理学・水文学・河川・港湾・海岸・発電水力・衛生工学・等）160，第Ⅲ部門（土質力学・基礎工学・土木機械・施工・トンネル，等）130，第Ⅳ部門（鉄道・道路・コンクリートおよび鉄筋コンクリート・土木材料・交通・都市計画・測量，等）139であり，例年通り個人発表と総括報告の二形式が併用された。本年は原則的に掛図の使用を禁止しスライドを使用することにしたことや，会場の分散による連絡の不便さについては，思ったほどの混乱はなかった模様である。司会者および総括報告者ならびに聴講者数は次の通り。

写真—9　研究発表を熱心に聞き入る参加者



（1） 第 I 部門

司会者：

佐武　正雄　山本　稔　伯野　元彦　児島　弘行
三上　市蔵　芳村　仁　波田　凱夫　大久保禎二
中村　卓次　川口　昌宏　秋山　成興　竹間　弘
阿部　英彦　佐藤　吉彦　片山　恒雄　田村重四郎
桜井　彰雄　平井　一男　井上　肇　三宮　和彦
堀川　浩甫　西野　文雄　松野　操平　深沢　泰晴
清野　茂次　土岐　憲三　吉田　裕　山田　善一
岡内　功　大久保忠良

総括報告者

前田　幸雄　岡村　宏一　夏目正太郎　多田　安夫
島田　静雄　福本　嗣士　栗林　栄一　小坪　清真
久保慶三郎　後藤　尚男　西村　昭　西脇　威夫
田島　二郎　西村　俊夫　田原　保二　小松　定夫
山田　善一　伊藤　学

（2） 第 II 部門

司会者：

岩垣　雄一　永井荘七郎　浜田　徳一　岩崎　敏夫
岸　力　富永　正照　芦田　和男　西畑　勇夫
石原　安雄　吉川　秀夫　杉尾捨三郎　室田　明
粟津　清蔵　嶋　祐之　米元　卓介　境　隆雄
高橋　裕　林　泰造　宮脇　俊夫　山本　剛夫
遠山　啓　末石富太郎　杉木　昭典　南部　牂一
徳平　淳　柏谷　衛　内藤　幸穂

総括報告者

尾崎　晃　堀川　清司　光易　恒　椿　東一郎
木下　武雄　高棹　琢馬　山岡　勲　岩佐　義朗
足立　昭平　千秋　信一　今本　博健　吉川　秀夫
芦田　和男　土屋　昭彦　河村　三郎　土屋　義人
松梨順三郎　上田年比古　久保　赳　丹保　憲仁
合田　健　松本順一郎　寺島　重雄

（3） 第 III 部門

司会者：

藤本　広　石原　研而　杉内　祥泰　木村　孟
吉国　洋　植下　協　浅田　秋江　柴田　徹
畠山　直隆　西田　一彦　鈴木　健夫　浅川　美利
清水　英治　石山　和雄　箭内　寛治　森　麟
三浦　裕二　桜井　春輔　宇都　一馬　西田　義親
山門　明雄　畠　昭治郎　斎藤　二郎　山本　稔

総括報告者

三笠　正人　網干　寿夫　市原　松平　中瀬　明男
谷本　喜一　山内　豊聡　松尾新一郎　三木五三郎
久野　悟郎　山村　和也　赤井　浩一　吉田　巌

（4） 第 IV 部門

司会者：

渡辺　明　河野　清　菊川　浩治　加藤　清志
徳田　弘　船越　稔　石川　達夫　仁枝　保
藤井　学　西堀　忠信　森　忠次　加藤　晃
松浦　義満　大浜　嘉彦　広瀬　盛行　河上　省吾
水野　弘　西山　力生　明神　証　波木　守
木村　孟　赤塚　雄三　川村　満紀　加来　照俊
川口　昌宏

総括報告者

水野　俊一　永倉　正　村田　二郎　神山　一
杉木　六郎　天野　光三　新谷　洋二　枝村　俊郎
塙　克郎　佐佐木　綱　岡田　清　渡辺　隆
菅原　照雄

聴　講　者　数

部門	会　場	26日	27日		28日	
		午後	午前	午後	午前	午後
I	都市センター本館講堂	35	55	105	50	70
	〃　別館第1会議室	130	80	90	65	45
	〃　〃　第2会議室	85	55	110	80	75
II	都道府県会館601号室	90	95	75	80	60
	〃　602号室	100	70	105	75	50
	砂防会館大会議室	40	110	90	70	85
III	全共連ビル大会議室	120	120	120	100	90
	〃　中会議室	75	55	40	35	50
	〃　第1会議室	55	45	80	—	—
IV	麹町会館ホールA	90	65	85	80	70
	〃　ホールB	60	60	70	50	30
	〃　カトレヤ	15	25	65	—	—
	計	895	835	1035	555	625

4. 映　画　会

部門講演会の会場である地財ホールの空時間を利用して，9月27日（土），28日（日）の両日，映画会が行なわれた。学会が主催している国土開発映画コンクールの入賞作品や，選定映画の応募作品から選んだ作品のため優秀なものが多く，参加者の格好の息抜きの場となっていた。なお，今回の映画会では明るい所で見られる映写機を使用し，「疲れない」と好評だった。

9月27日（土）・尾道大橋（日本道路公団），いしずえ（東京電力），9月28日（日）・地盤とのたたかい（ケミカルグラウト），東名高速道路（日本道路公団），ドラムのひびき（キャタピラー三菱），よみがえる川（群馬県）が上映された。

5. 見　学　会

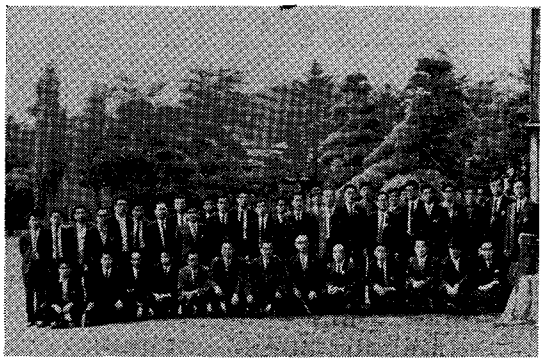
（1） 第1班（中央，東名高速道路コース／9月29日～9月30日）

9月29日午前8時45分東京駅北口CTC前に42名全員が集合した。前日から危惧されていた天候もさほど悪くならず，曇天で気温23度と絶好の見学日和と思われた。一行は72才の高令者から学生まで，平均年令27～28才の若さの組となった。予定の9時バス1台で出発，都内は神田橋より高速4号線に乗り，逆ラッシュのコースなのでガイド嬢の科学技術館の説明を皮切りに聞きながら順調に進んだ。

9時25分，調布中央高速道路インターチェンジに入ると案内役は日本道路公団の服部氏となり，時速70 km 以上のスピードで走るバスの中で，この道路の建設命令が昭和37年に出され，それからの工事施工状況，開業してからの問題点，各インターチェンジの構造，災害時の警備体制，通信連絡方法，冬期対策，維持管理，標識の配置などの説明を受け，途中10時30分談合坂サービスエリアで10分間の休憩，10時55分，大月インターチェンジより甲州街道に入る。排気ガスで汚れている笹子トンネルも一気に通過，11時48分石和ドライブインに到着。

昼食後小松農園の甲州ぶどう棚を自由見物し，見事な房の成り振りに目を楽しませた。13時30分石和出発，国道137号線で富士五湖の一つ河口湖に向う，シーズンオフのためか観光客が少なくガイド嬢の説明による湖水祭10万人の人出は想像でき

写真-10　河口湖ホテル前で記念撮影をする第1班参加者



なかった。静かな湖面を横にらみしながら一路富士スバルラインに入る。1合目までの赤松，2合目までの白樺，3合目までの青木が原樹林地帯，4合目までのモミ，ツガなどの原生林，5合目までの雲中の合い間に見える富士山頂，心にしっかり刻まれる風景であった。標高2045mの五合目では，あいにく霧の中であったため16時13分出発，本日の宿泊地河口湖ホテルに帰る。18時40分より会食，国鉄藤井氏の司会のもとに，長老徳善氏のあいさつ，山梨県学会地元代表の大柳氏の歓迎のことば，日大の安藤氏の乾杯でなごやかな懇談が始まり，地元民謡，武田節なども飛び出して盛会に終る。

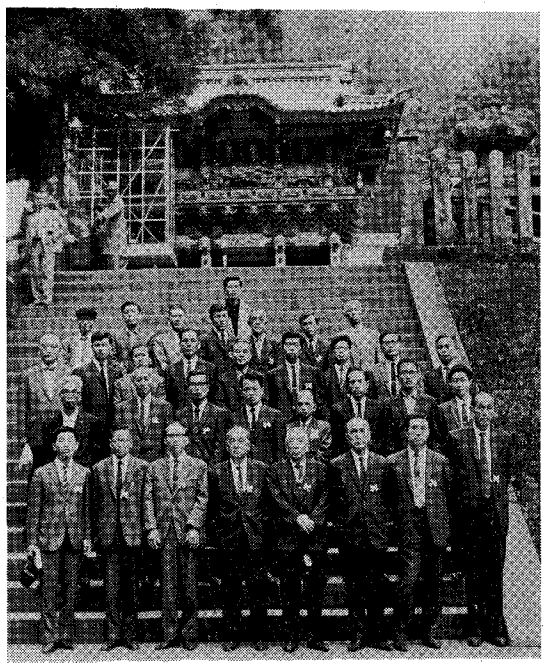
30日午前9時全員元気で国道139号線を南下，富士山の噴火によりできた風穴，富士五湖の精進湖，本栖湖を回り，白糸の滝に11時到着，滝を見物後昼食をすませ12時35分出発する。小雨が降ったがすぐ晴れて12時35分富士インターチェンジに到着する。富士宮道路維持事務所にて東名高速道路の補修機械と富士宮から御殿場までにある5つのトンネルの換気装置，警報機，照明灯のコントロール室を見学，熱心な質問などあって，道路設備を再認識させられた。14時40分同所を出発，時速100kmスピードで快適感を味う。御殿場から乙女道路，芦の湖スカイラインと眼下に芦の湖を見ながら，箱根関所跡や神崎与五郎と馬子の話をガイド嬢より聞く。16時55分，小田原インターチェンジ着，参加者5人がここで降りた。17時10分，最終コースの東名高速道路に乗る。車中では特に軟弱地盤対策や廃棄物処理について質疑応答がかわされた。17時10分東京インターチェンジに到着したが，都内は大型バス規制のため目黒線を経て第三京浜道路に乗る。夕闇に包まれた東京はネオンで東京タワーを浮き彫りにし，銀座の白色灯，ヘッドライトと色彩の洪水の流れは，有終の美を添えるにふさわしい眺めであった。17時10分東京駅北口に無事到着，名残りを惜しんで散解した。本行事に協力下された日本道路公団の方々に厚く謝意を表する。

（国鉄東京第一工事局／藤井浩，長谷匡彦，田辺与治・記）

（2）第2班（日光，利根コース／9月29日～9月30日）

参加者33名，曇り空であるがまずまずの天気，9時14分東京駅は新幹線CTC前を出発，参加者一同学会を終えてホッとされたか，車内にはなごやかな談笑がつづいていた。心配していた都内もスムースに抜けた頃タイミングよろしくガイド嬢の東京音頭，国道4号線をつっ走り最初の見学地渡良瀬遊水池工事について，柵野所長，清水課長の出迎えを受け，第一排水門上で，四方を眺めながら説明を聞いた。遊水池面積33km²，まことに広大である。寸尺の土地取得に血道をあげている都内工事の技術者から長嘆息のもれるのも無理はない。会員の皆さんは熱心で質問続出，時間を気にする幹事をはらはらさせながらようやく中食，あとは途中までわざわざ出迎えて下さった栃木県宇都宮土木事務所根岸所長の説明を聞きながら，車影も少ない日光例幣使街道を快適なドライブ，東照宮を参拝鎮座350年記念金300円也の金盃に思案する人もあり，第二いろは坂にかかる頃はあたりは一面のガス，山岳コースのクライマックス，カラマツ，シラカバの戦場ケ原をすぎて定刻湯元温泉南間ホテル着，懇親会は斎藤栃木県土木部長も特に出席，なかなかの盛会であった。

写真-11　東照宮前で記念撮影する第2班参加者



明くれば30日，朝方陽もさし金精道路上からの男体山の裾に開けた奥日光の景観は素晴しい。この日は菅沼，丸沼を右に見て山岳風景を満喫しながら沼田をすぎて一路下久保ダムへ。ダムサイトで公団の鶴見所長，小林技師の出迎えを受け主堤，副堤と続く600m，多目的ダムの壮観である。ダムを一望に見下ろす管理所での建設記録映画を見せて頂いたのはうれしい心づかいであった。帰路は両側にある石店の三波石を鑑賞しながら逆戻り，このダムや利根本流の水を集める行田市利根大堰へと向う。定刻をオーバーし，東海道線方面への接続も怪しくなったので，大堰見学を割愛して熊谷駅で下りて頂いた方が6名，武蔵水路に出たときはホッとした。全長700m12門の大堰，満々とたたえた水量，治水利水の大プロジェクトに力強いものを感じた。永井所長，和田課長の熱心な説明に帰りを急ぎながらも，ついつい足を引き止めた。一行27名ようやく街灯の光が満した吹上バイパスを快走，18時大宮駅西口に無事帰着，名残りを惜んで解散した。この見学会，熱心な会員諸氏の協力と，関東地建，水資源公団，栃木県土木部のご協力によって予想外の成果を収め得た。関係のご一同に深く感謝する次第である。参加会員33名。

（国鉄東京第一工事局／深田彰一，守田久盛，小田倉博・記）

（3）第3班（東京都内コース／9月29日）

東京都八重洲口に9時集合，まず丸の内駅前広場下に施工中

の地下駅現場に向った。

写真—12　東京地下駅の工事現場を見学する第3班参加者

この工事は東海道線と総武線の線路を増設し，湘南・横須賀方面と千葉・木更津などを直通電車運転をするためで，品川～両国間が地下線路となり，両線と接点になる東京駅の新駅は地下5階・26mと日本一深い駅となる。

現在，東京駅名物の丸の内駅本屋北ロドーム総重量19 000 tをアンダーピンニングで仮受けが完了し，地中壁，一次掘さく深礎に鉄骨のたて込みを施工中であり，これらを30分見学した。次に東海道新幹線総合指令所（CTC）を見学，ここは東京～新大阪間515 km間の全列車を遠隔制御により運転調整を行なっている所で，各指令員によって列車運転が正確安全能率的に運営されている状態の説明を受ける。いよいよバスに乗車して都内コースに出発。皇居前を経て警視庁に到着，ここで道路管制状況を見学する。都内の交通渋滞が一目でわかる。

次は超高層霞が関ビルである。耐震，耐風対策などの設計施工概要の説明を聞き，地上150 m，36階の展望回廊にのぼる。記録は破られるの例えの通り，近くに40階建の貿易センターの建物などが眺望できた。

昼食は，東京オリンピックのためにつくられ，吊り屋根構造で有名になった国立代々木競技場でとった。

午後の部は13時NHK放送センターから始まった。ここはTV・ラジオの番組制作工場で，スタジオ，道具部屋，電気空調制御室，等を見学する。

次は新宿副都心を見学，新宿駅西口広場を「カナメ」として，淀橋浄水場跡を中心とした街づくりに，道路の立体交差，広場，緑地帯も十分取り入れられた計画および工事中の超高層Kホテルの設計施工概要を聞く。

高速道路に出て，最後の羽田国際空港に向うバスの内でさらに淀橋浄水場の建設経緯の説明を受ける。

空港では45年のジャンボジェット機の就航および需要の増大に対応するため，エプロン新設，滑走路延長工事が行なわれている現場をまず見学した。次に，間断なく発着する飛行機に的確なる指示を与える管制状況を見学した。

この日は英国フェアのため来日中のマーガレット王女が帰国されるためか，空港は非常に混雑しているように見受けられた。

これで多忙な都内班の見学もなごやかな雰囲気のうちに終り，バスで東京駅に向かう。夕方の高速道路1号線は都心に向かう車の行列でやや低速道路と化していたが，ネオン濃い銀座を眺めながら18時八重洲口で解散した。

最後に，この見学会のためにご協力を賜わった関係者の方々に厚くお礼申し上げます。参加会員43名。

（国鉄東京第一工事局／草野一人・記）

6. 懇　親　会

昭和44年度土木学会全国大会実行委員会に，大会での会員相互の親睦交換の場としての懇親会を運営するための準備係として懇親部が昭和44年5月に正式に設けられた。この懇親部は部長末沢不二雄（東京都建設局），部員服部教埜，有山勇次郎，小栗良二（以上都建設局），井畔瑞人（清水建設），，千葉博敏（日本鋪道）の6氏で構成されていて，早速事務局の皆さんの力を得ながら懇親会の諸事万端についての準備を進めてきた。会場については例年と異なって大会が千代田区平河町周辺施設を利用することから，地理的条件および経費等が勘案され，ホテルニュージャパンが選ばれた。そして懇親会を質素に，有意義にそしてスマートに行なうために，事務局の人々を混じえて部会で論議し，一つ一つの実行案が決められていった。

懇親会は大会2日目の9月27日（土）午後6時からホテルニュージャパンで開催された。名誉会員，本部役員らの招待者や一般会員の多数の出席者があったが，特に一般会員の予期以上の出席者で受付が嬉しい悲鳴をあげていた。出席者は無骨な男性の手で，幸運な人は美しい着物姿の女性の手で胸に名札と花をつけ，和・洋服で飾ったホステス達の列の前を通って会場の大ホールに入った。まず，末沢懇親部長の開会の辞，小林元橡全国大会実行委員長および柳沢米吉土木学会会長の挨拶といった会のプログラムは型通りに進んで，会場の雰囲気が盛り上がった所で青木楠男名誉会員のユーモアに富んだ音頭で乾杯が行なわれ，会員の懇談に入った。早速久方の再会を喜ぶ声，仕事のこと，現代の世情といったさまざまの話題が賑やかに会場を包んでいった。宴はますます盛んであったが，会場の都合で時間が迫ったため，国分正胤土木学会副会長の音頭で土木学会万才を斉唱し，ホタルの光のバンドの音色で成巧裏に懇親会を閉会した。

（東京都建設局／有山勇次郎・記）

写真—13　懇親会で乾杯の音頭をとる青木名誉会員（上）と参加者一同（下）